



緑化建設協会だより

発行所 社団法人 石川県造園緑化建設協会 総務広報委員会 発行責任者 立花 栄志

〒920-0370 金沢市上安原1丁目245番地2 TEL 076-269-1110 FAX 076-269-1279



緑と親しむ



森林と文明

石川県議会議員 稲村 建男

尖閣諸島や15年ぶりの円高など理不尽な問題が多い中で、久々に明るい話題が飛び込んできた。

チリ北部サンホセ鉱山の事故で、地下700mに閉じ込められていた33人の作業員が、事故発生から69日ぶりに地上に生還した。作業員全員が地底からの奇跡の脱出を遂げた感動的な場面にくぎづけになった。落盤事故が発生したのは8月5日、33人の生存は絶望視されていたが、捜索のため掘削したドリルの先端に生存のメモがあり、17日ぶりに生存が確認された。米国NASAの支援など国を超えた協力体制もあり今回の快挙となった。とは言え、事故発生から17日間、地下深く閉じ込められた間の作業員の心理は如何なものだったのだろうか。この間、生まれながらリーダーの資質を有すルイス・ウルスアさんという存在が大きいと言われている。気温30度、湿度はほ

ぼ100%、わずかな食料という厳しい環境で取り乱すこともなく団結し、過酷な地下生活に耐えた。お見事としか言いようがない。

この救出劇を見ながら背後の景観が気になったのは緑化建設業に関与している性だろうか。現地は一本の樹木も見られない砂漠で、わずかに砂漠特有の草が散見される広漠たる景観である。

アジアモンスーン地帯の東端に位置する瑞穂の国との差違はあまりにも大きい。文明の発祥の一つの地域で、今は乾燥地であるエジプト、ギリシャ等は、かつては立派な森林地帯であった。そもそも文明は資源を利用することにより成立するが、人類は、人口の増加に伴う農地の拡大や燃料としての消費、商船や軍艦の造船、金属の生産等で森林を破壊してきた。

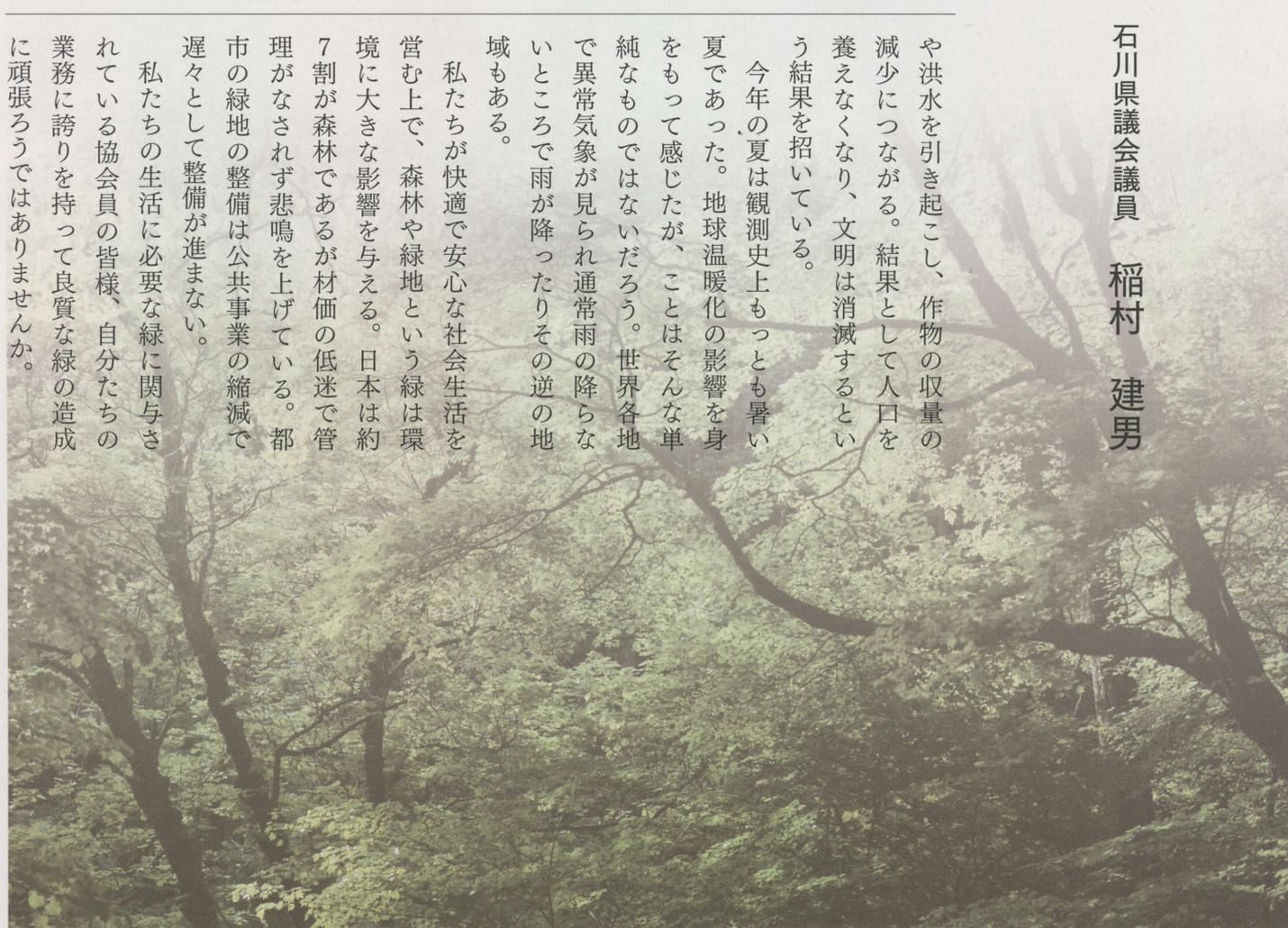
森林の急速な消失は、土壌の流出

や洪水を引き起こし、作物の収量の減少につながる。結果として人口を養えなくなり、文明は消滅するという結果を招いている。

今年の夏は観測史上もっとも暑い夏であった。地球温暖化の影響を身をもって感じたが、ことはそんな単純なものではないだろう。世界各地で異常気象が見られ通常雨の降らないところで雨が降ったりその逆の地域もある。

私たちが快適で安心な社会生活を営む上で、森林や緑地という緑は環境に大きな影響を与える。日本は約7割が森林であるが材価の低迷で管理がなされず悲鳴を上げている。都市の緑地の整備は公共事業の縮減で遅々として整備が進まない。

私たちの生活に必要な緑に関与されている協会員の皆様、自分たちの業務に誇りを持って良質な緑の造成に頑張ろうではありませんか。



能登だより 造園管理の大切さを学ぶ

㈱ランドスケープ開発 木本 雅彦

去る10月にクロマツの剪定講習会を開催しました。能登支部では、このような造園技術の講習を基本知識の学習、技能の向上、次世代の育成等を目的として年に数回行っています。また、こういう場を設けて意見の交換をすることにより、新人は誇りある仕事を覚え、ベテランは初心に戻り、固定しがちな観念を拭えることができ、日々仕事に追われることにより、疎かとなる向上心を取り戻す貴重な機会だと考えています。

さて、皆さんはマツの剪定を年2回する必要があることを御存知でしょうか？5月頃のみどり摘みと10月頃のみみあげのことであり、心得がある者なら当然だと思われるでしょう。しかしながら、公共事業等の管理業務で予算通り年1回で済ませてはいないでしょうか。発注者、顧客側に予算がないから、理由だけでは、努力してるとは言い難く、つまりは、造園業としての責務を怠っているのではないのでしょうか。

よくマスメディアで『はこもの』等とよく無駄な公共施設が騒がれています。皆さんの近くの公園も同様に思われるものもあるかもしれません。しかし、ここで大きな違いがあるのは、建物、構造物と違って植

物は生ものです。手を掛けなければ、忽ち樹木は枯れ、雑草は伸びっぱなしになり、せっかく造ったものがそれこそ無駄になってしまいます。公園は生きています。綺麗なトイレは快適ですが、公園も同じです。管理が行き届いてる公園は、気持ちが良いものです。

今回の講習は、七尾市の御協力により道の駅なかじまロマン峠の一部で行いました。国道沿いにも関わらず、管理が数年されていない状態で、まさに職人の腕の見せ所といった場所でした。剪定講習を題材にこの場所を少しでも綺麗にしたかったこともあり、講習後は、狙い通り、クロマツを剪定しただけで、明るくなりました。

今回、植木屋、庭師としての原点となる剪定の講習を通じて、造園管理の大切さを考えさせられました。手入れをするということとは、確かに時間もお金も掛かります。しかし、手間を掛けることにより、それ以上の結果が得られるのが造園であり、人が世話し、こその自然ではないでしょうか。お金で買えない価値を志し、また精進していきたいと思いません。



before



作業状況



after



打合せ状況

金沢だより

都市公園の リニューアル事業について

ここ数年、私たちの住む石川県でも幾度か災害に見舞われる事があり地域の住民の方々の一時的な避難場所として現在点在する都市公園・児童公園の利用が、安全・安心の街造りに大きな役割を果たすと考えています。

私たちは造園事業者として、緑溢れる快適な生活空間を創造すると共に安心・安全な街作りにも積極的に参加していきたいと思えます。



住民の皆さんの身近にある公園の防災機能を追加したリニューアルについてこれまで造園工事部会では企画事業委員会と合同で視察・研究を行ってまいりました。

石川県造園緑化協会として快適で安心・安全な街づくりの一環として防災機能を持った公園リニューアルを提案していきたいと思えます。



金沢支部会 樹木治療部会より

近年、温暖化や酸性雨など様々な気象状況の変化等で、植物が衰弱傾向にあると言われています。では私たち造園はこの植物達に対し何かできることはないのでしょうか。
今、金沢市では多くの保存樹を保有しています。その一部もこの傾向にあり、市側より樹木治療を施して

欲しいとの相談から、金沢支部会では樹木治療部会を発足いたしました。今回治療依頼のあった樹木は、彦三緑地のツツジ群 2寺島蔵人邸のドウダンツツジ 3金沢暮らしの博物館の赤松 の三か所で行いました。一昨年、大樋邸の赤松を樹木治療する際に立ち会ったメンバーを主に多くの方々に参加いただき、金沢市からは岐阜大学名誉教授林進氏、緑と花の課 上田主任技士(樹木医)とともに、現地調査及び治療方法を指導して頂きました。



調査状況

七月に行った現地視察の際に三か所とも根茎の発育不良が樹木の衰弱につながっているのではないかと予測されました。九月に入りpH試験・土壌硬度試験・透水試験・土層調査など土壌調査に取りかかり、その結果から林先生より治療内容を指導して頂き、一月中には土壌改良の工程をすべて終了することができました。(治療内容については、以下に示す) 根の先端を傷つけないよう掘り進



む作業など非常に根気のいる手作業が続きましたが、皆様のご理解・ご協力のおかげで無事終了出来たことに感謝し、これから一つでも多くのデータを収集し、また金沢の風土にあう治療法を探るにあたり、先人の皆様よりご意見なども伺いながら、「金沢の樹木治療」の確立など、これからの造園作業(樹木治療)についていければと思っております。



土壌断面調査の状況

- ① 彦三緑地 (金沢市彦三1丁目)
対象樹木/ツツジ群
治療内容/土壌改良処理・発根・殺菌処理・枯枝除去・シロアリ駆除 等
- ② 寺島蔵人邸 (金沢市大手町)
対象樹木/ドウダンツツジ
治療内容/土壌改良処理・発根・殺菌処理・枯枝除去・遮光性の改善 等
- ③ 金沢暮らしの博物館 (金沢市飛梅町)
対象樹木/赤松
治療内容/土壌改良処理・発根・殺菌処理・枯枝除去・マツノマダラカミキリ(幼虫)駆除・ルートトラップ・根茎露出(深植と思われる樹木の根元付近の根茎の露出)・エアレーション 等

【使用材料】

土壌改良処理/カーボエース・腐葉土・刻み葦
発根・殺菌処理/ヒノキチオール(森の精)・インドール酪酸・バイオビリオン
枝幹処理/キガタメール

加賀だより

道路沿道の景観改善に向けた取り組み

加賀支部(旧加賀地区会)は、これまで「緑のネットワーク」構想、「史跡・名勝・巨木・名水等整備」構想をまとめ、報告してきました。これらは南加賀に存在する歴史文化的、自然的資源を改めて見つめ直すことで、この地域の特色に対する理解を深め、それらをつなぐ道路、街路樹はどうあるべきか、新たな風景づくりに対する提案はできないか等について、研究を重ねてきた成果でした。

また、近年は南加賀の玄関口としての高速度道路インターチェンジや空港付近に的を絞る、これまでの研究成果を踏まえた景観整備の可能性について意見を出し合ってきたほか、新たな手段としてアドプトプログラム制度に着目し、先進地視察等の調査研究を深めてきました。

今期は、南加賀地域の県道周辺を対象とし、景観整備が必要と判断される箇所、あるいは新たな修景が可能な箇所等を改めて洗い出し、将来の具体的な提案に向け調査活動を行っています。



抵抗性松のその後

加賀地区会試験地からの報告

平成18年11月に高さ40cmの植えた静岡県産の抵抗性松の苗木は4年の歳月を経て約2mに成長し、成長は著しい。平成20年3月に植えた熊本産の抵抗性松も同様にすこぶる成長がよく既に1mを超えている。

今年の猛暑にも負けず、健全に順調に育っていることを確認した。

「今後の成長も見守っていききたい。」
と一同思うところである。

写真は上段が平成18年11月植栽時、



下段が平成22年11月に撮影したものである。



県外先進地(奈良)調査 参加して

(株)立花造園 立花 栄志

去る平成22年10月19日から2日間にわたり、奈良県開催の全国都市緑化フェアと平城遷都1300年祭などへ視察してまいりました。

私自身の視察目的として、全国都市緑化フェアでの最新緑化技術や出展庭園などの勉強と、平城遷都1300年の歴史の区切り年での観光におもむきを置いている、奈良県の緑と花を用いての景観をどのように組合わせているのか？また、観光客に対してのおもてなしの取り組みなどを視察させて頂きました。

全国都市緑化フェアでは、「未来へつなぐ「花のもてなし」」やまと青垣からの贈りもの」のコンセプトのもと、国内でも有数の古墳が集中し、歴史と自然の魅力いっぱい馬見丘陵公園をメイン会場として開催されていました。楽しさや珍しさいっぱいのいろいろな企画の庭園や、奈良県特産のダリヤの花々が咲き誇る花壇などの花景観が展開し、来場者を温かくお迎えしていました。そして、何ととっても凄いのが、入場料が無料だったことでした。もし私がこの

すぐ近くに住んでいたら、毎日訪れていたことでしょう。会場を案内して下さるボランティアの方々も親切に丁寧に接して頂き、会いたかった遷都くんにも会うことができました。平城遷都1300年祭の平城宮跡会場では、大型バスが何台も来ており多くの観光客で賑わっていました。朱雀門から第一次大極殿までは、約一キロもあろうかといった大きなスケール観に度肝を抜かれ、圧巻でした。また東院庭園では、発掘調査の成果に基づいて、庭園内の建物、苑池や橋、植物、樹木に至るまで、奈良時代の庭園を復元展示していました。説明ボランティアガイドの方も、専門家の我々にもしっかりと説明して下さいました。ちょっと造園専門



法隆寺

家の質問がマニアック過ぎた気もしましたが、。まだ現在も調査解析中の箇所もあるとか。これからも気になる歴史的価値のある庭園でした。平城宮跡会場では、一重によく歩いたなあと言った感想です。現在も発掘調査中で、まだまだ今後わかってくることや、復元が進むことが期待されました。2日間に渡る奈良県の先進地調査では、偉大な世界遺産の歴史的価値に、花や緑のおもてなしや賑い空間・景観が組み合わさり、これからの観光都市としての心意気を感じました。今後は我々、造園家はこういった取り組みも念頭においた活動が必要とされる時代が垣間見えたように思いました。



平城宮跡



第27回全国都市緑化ならフェア会場



アベリア“カレドスコープ”

春の新葉に明るい黄色の覆輪が入る美しい品種です。普通のアベリアよりも比較的早く育ちます。



ローズマリー“ウィルマスゴールド”

葉は、ローズマリー特有の香りがあり、明るく美しい黄金色になります。

極上の
ニュー
スタンダード

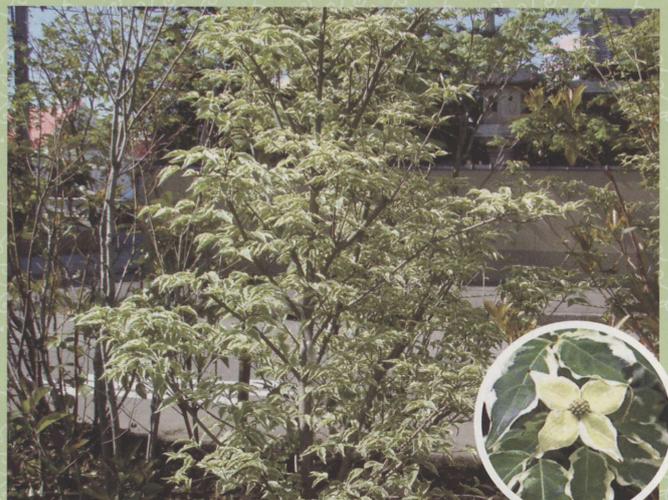
ブレイク
必至!!

北陸上陸の樹木たち



ハナミズキ“ホワイトラズ”

樹形の整いやすい品種で白色の大輪花を特とする観賞価値の高いハナミズキです。



ヤマボウシ“ウルフアイ”

葉に美しい白覆輪の入る品種。樹形はきれいな開帳型となります。

社団法人 石川県造園緑化建設協会

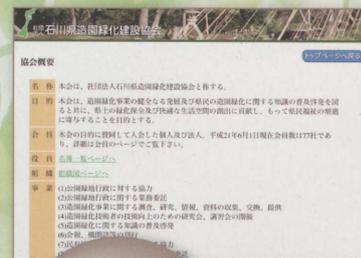
造園緑化事業の健全なる発展及び県民の造園緑化に関する知識の普及啓発を図るとともに、県土の緑化保全及び快適な生活空間の創出に貢献し、もって県民福祉の増進に寄与することを目的とする

現在
取り組んでいる
事業について

- 都市公園のリニューアルについての調査・整備手法等の研究
- 街路樹の適正な整備と管理・育成・研究
- 抵抗性マツの調査・研究

詳しい活動内容はこちらのホームページでもご覧になれます。ぜひ、アクセスしてみてください。

<http://ishizokyo.net>



施工事例
学校緑化事業
壁面緑化事業
…
など

